

LA DOLCE VITA

海とイタリアをこよなく愛し、ワイン、アート、マリン文化に深い造詣を持つ伊藤英一氏。氏がこれまで体験してきた地中海のマリタイムの煌めきを中心に、海と食とボートに関わる彼らのライフスタイルを語る。

text & photo: Eiichi Ito

#19 コモ湖の最高級リゾート Tremezzo (トレメッツォ)

グランド ホテル トレメッツォ

ミラノの北に位置するコモ湖には古くから王侯貴族や政財界の大物の館が湖沿いに点在している。最近では映画の舞台になる事も多く、007シリーズ「カジノ・ロワイヤル」や「オーシャンズ11」、「スター・ウォーズ エピソード7」でも美しいコモ湖を背景にした優雅な館が登場している。

「オーシャンズ11」に主演したジョージ・クルーニーは、撮影で訪れたコモ湖がいたく気に入って、湖の中央部左岸 Laglio (ラーリオ) に別荘とマホガニー製 Riva を購入したとの逸話も残っている。

コモ湖で誰もが憧れるリゾートホテルと言えば、Villa d'Este (ヴィラ・デステ) がす

ぐに思い出されるが、湖の北の左岸に佇む Grand Hotel Tremezzo (グランド ホテル トレメッツォ) は、ヴィラ・デステに次ぐ飛び切り優雅なホテルだ。100年以上の歴史を誇るアール・ヌーボー様式のホテルは荘厳かつ優美である。湖に面して空中に突き出したカフェとレストランと部屋からのコモ湖の眺望は得も言えぬ美しさだ。

特筆すべきはホテルと湖の間に特設のビーチが設けられている事だ。敷き詰められた白砂にオレンジ色のロングチェアと白いパラソルの咲く様も優雅そのものである。ビーチ前の湖にはフローティングのプールがしつらわられていて、ひと泳ぎすると大自然の湖で泳いでいる気分を満喫出来る。プールサイドにはクルーザーが係留出来るように

なっているから、湖をクルージングした後にひと泳ぎする事も可能だ。とにかくリゾートをとことん楽しめる工夫と設えが徹底していて気持ち良い。これなら客の遊び心をしっかりと掴む事が出来るだろうし、100年以上の存続をも可能にしているのだと感心させられた。

ホテル専用の棧橋からはマホガニー製のボートをチャーターしてコモ湖遊覧を楽しむのも一興だ。地元の誰もが絶賛した対岸の Bellagio (ベラッジオ) にはいつか行ってみたいと思っている。「コモ湖の真珠」と讃えられるその街はロマンティック、チャーミング、最高のリラクゼーション スポット等々最大級の形容詞が付くほどで、レストラン、カフェやショップも飛び切りエクセレントとの事である。



コモ湖畔に佇むアール・ヌーボー様式の「グランド ホテル トレメッツォ」。緑で覆われたエントランスからエレベーターでフロントに行くことも、或いは左右の階段で美しいガーデンを眺めながら登って行く事もできる。部屋や空中レストランからは、日によって変化する湖の色彩を楽しむ。湖沿いのホテル専用ビーチ横から棧橋を下ると、係留された湖遊覧用ボートのマホガニー製船体が湖面にキラキラ反射している。



発表されたクランキの「マニフィカ78」の模型。2019年のリリースとなるクランキ最大のフライングブリッジ艇は既に7艇のオーダーが入っているという。ホテル前の専用ビーチからアプローチするプールサイドには、クランキのオープンクルーザー「Z35」とハードトップ艇の「M44」が係留され、その姿をホテルのどこからでも見下ろす事が出来る。

Cranchi のフラッグシップ 「Manifica78」発表

ホテル名となっているトレメッツォの街は、150年前のCranchi (クランキ) の創業の地でもある。山と湖に挟まれ平地が殆どないトレメッツォでは拡大する生産体制を維持出来ない事から、コモ湖北部の右岸に位置する現在の Piantedo (ピアンテド) に居を移したのだと、パオラ・クランキが教えてくれた。その創業地でクランキのフラッグシップとなるマニフィカ78 (Manifica) の発表がグランド ホテル トレメッツォで盛大に開催された。湖を見渡すカフェでのフィンガーフードのランチから始まり、マニフィカ78の発表セレモニー、湖沿いのビーチでのカクテルパーティ、更にはガラディナーと豪華かつ優雅なセレモニーが続いた。ホテル専用棧橋にはクランキ Z35 と M44 のピカピカの船体が湖面に映

え、まさに一幅の絵画を観ている様な錯覚にとらわれた。この2艇の内覧とテストドライブが行われたが、湖面を滑る様に疾走すると、湖特有の澄んだ空気が心地よく全身を吹き抜けた。

ガラディナーではイタリア最高峰のシェフであるガアルティエロ・マルケージ (Gualtiero Marchesi) の素晴らしい料理が振舞われた。ロブスターから始まり金箔で覆われたミラノ風サフランリゾット、シーバスのトマト、オリーブ、ケイパーとセロリソース掛け、マルケージスタイルのフィレ肉とフォアグラ、黒トリュフにナッツとレイズンソース、デザートはミルフィユにマスカルポーネ・ムースと森のフルーツ。実に美しくリッチで美味なディナーである。

クランキは日本で最も名の知れたスプマンテ Ferrari (フェッラーリ) と常にコラボして、オードブルでは Perle 2010 に始まり、Perle Rose Riserva 2011、メインディッシュ

では2013 Montefalco Rosso、デザートでは再び Ferrari Maximum Demi Sec で締めくくられた。

マルケージは北イタリアの Iseo (イゼーオ湖) のイタリア最高峰のスプマンテを産する Franciacorta (フランチャコルタ) に優雅なレストランのあるホテルを所有している、僕自身そこを訪れるのを何時も楽しみにしていたが、近年再び居をミラノに移し、年齢を感じさせない活動を今も続けている。

イタリアでの楽しみは優雅なリゾート滞在のみならず、舌を唸らせる料理を頂ける事にもあるから、何度訪れても満足度は高まるばかりである。P.B.

Profile

伊藤英一

事業家。ボート歴は10代から既に半世紀以上。欧米の多くのリゾート地を訪れ、その土地の食やワイン、アート、音楽等に触れることを至上の喜びとしている。RIVA と RIB の熱烈な愛好家。